

リンドウ花弁の高温障害の原因となる生育ステージと環境条件

福島県農業総合センター 作物園芸部花き科

1 部門名

花き－リンドウ－生理・生態、生理障害

2 担当者

矢島 豊・宗方宏之・山口繁雄

3 要旨

近年、紫系品種の花弁に着色不良症状が生じる障害が増加している。花芽発達中の高温遭遇が原因の高温障害であると考えられているが、詳しい発生要因は分かっていない。そこで、障害の発生状況と高温遭遇の前歴の解析し、高温感受性の高い生育ステージと原因となる環境条件を明らかにした。

- (1) 高温遭遇により障害を受け易い生育ステージは、開花の約1ヶ月前(中生品種では出蕾からおよそ2週間前後、晩生品種では2~3週間後と推定)と考えられた。
- (2) 障害を引き起こす可能性が発生する環境条件は、「最高気温27°C以上 + 最低気温20°C以上 + 日照時間4hr以上」であると推定された。
- (3) 上記の環境条件は、統計上、梅雨明け前後~8月5半旬において多く観測されていることから、この約1ヶ月後の「8月5半旬~9月5半旬に開花する品種」は、潜在的な障害発生のリスクが高いと考えられる。



写真1 花弁の着色不良症状(尾瀬の輝、無、軽度、中度、重度)

4 主な参考文献・資料

- (1) 平成21年度～22年度福島県農業総合センター試験成績概要(2009～2010)
- (2) 平成20年度岩手県農業研究センター試験成績概要(2008)